

習志野市選抜が優勝

千葉マリーンズ杯争奪選手権

第23回千葉マリーンズ杯争奪選手権大会が9月25日と26日、ZOZOマリンスタジアムで開かれた。

この大会は千葉幕張メッセライオンズクラブが主催し、プロ野球公式戦が行われるスタジアムでプレーできる少年球児のあこがれの大会になっている。今年で30周年を迎えた千葉幕張メッセライオンズクラブが、子どもたちの健全な心と身体を育てたいと、1998

(平成10)年に第1回を開催し、スポーツ活動への支援を重ねている。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響でプロ野球の試合日程が大幅に変

更になったため、中止された。今年は感染対策を取るほか、セレモニの簡素化も図られ、千葉市6区と習志野市、佐倉市の選抜チームが参加した。

両日にわたり熱戦が行われ、習志野市選抜が優勝を果たした。

大会結果は次の通り。



3度目の優勝に輝いた習志野市選抜チーム



サヨナラ弾を放つ杉原選手(決勝戦)



果敢な走塁を見せた山下選手(準決勝戦)

習志野市選抜の第1試合は前回大会優勝の美浜区選抜と対戦。1点を追う習志野は3回裏、先頭の山崎が中越本塁打で同点とし、長島、杉原の安打、仲榮真のスクイズでこの回3点。4回裏にも2点を加えるが、5回表に美浜区は1点差に迫る。6回表の美浜の攻撃を武田が抑え、その回裏には皆吉の適時打で1点追加し、勝利した。

準決勝戦となる第2試合は若葉区選抜との一戦。1回表に1点先取されるが、2回表には千原が三者三振の力投を見せる。その回裏には井上の右中間二塁打、深野の適時打で同点とし、3回裏には1点リード。6回裏には中前安打の山下が好走塁を見せ、深野の右越三塁打、武田の三塁線二塁打などで3点を追加。千原の後、山崎から武田の投手リレーで得点を許さず、5-1で勝ち、2大会ぶりの優勝に輝いた。

決勝戦は中央区選抜との顔合わせとなった。習志野の先発・千原は1回、2回とも三者凡退に抑える。習志野は2回裏、四球の4番糸山が相手エラーで二塁に進み、6番井上の右越安打で1点。7番千原の左越二塁打で2点を奪う。しかし、中央区は3回表、一死からの四球後、本塁打で同点とし、右越三塁打などで1点リード。4回表にも右前安打、内野安打、三塁打で2点追加。3点差を迫る習志野は5回裏、四球の7番千原が捕逸で二塁に進み、送球エラーの間にかえり2点差とする。だが、中央区は7回表に1点を加えて3点リード。

3-6と再び3点差とされた習志野は最終回、先頭の6番國吉が内野安打と送球エラーで三塁へ。千原は四球で走者一、三塁に8番深野が右前安打で4-6。無死走者一、三塁は続き、9番武田は内野ゴロだが、送球エラーで千原、深野がかえり、同点。1番金井は右前安打に牽制エラーで三塁へ。二死走者三塁の場面で3番杉原の打球は右中間へのサヨナラ弾となり、金井がかえり、習志野市選抜は2大会ぶり、3度目の優勝を遂げた。

村山桂一監督は試合後、応援団に「すごい子どもたちで、すべてひっくり返しての勝利でした。8月からチーム作りを始め、足で点を取り、守りでアウトを取ることを重視してきました。守備ではミスがなく、内外野ともにしっかり守ってくれ、粘り強く戦ってくれました。最終回の攻撃前に『逆転で勝とう』と言った通りになって、最高の18人でした。よくやってくれました」と挨拶した。

選抜チームの武田選手は「優勝できてうれしかった。チームワークが良く、挨拶や基本を意識していままでやってきました。守りと走塁を磨いたことが勝つ原因だと思います」、殊勲打を放った杉原選手は「打席に入る前は緊張しましたが、打席に立てたのはみんながつないで打順を回してくれたお蔭です。感謝しています」と話した。

【習志野市選抜出場選手】
武田壘(主将・谷津サザナミ) 千原由暉(谷津サザナミ) 山下将暉(鷺沼マリンス) 井上律輝(谷津サザナミ) 仲榮真琉(美花レジェンド) 國吉悠雅(副主将・ならしのフレックス) 深野匠馬(藤崎シークレッツ) 田崎悠真(谷津サザナミ) 金井大輝(向山ファイターズ) 杉原遼(美花レジェンド) 永徳幹人(大東あづまヤンチャーズ) 山口凛(ならしのフレックス) 糸山朔太郎(美花レジェンド) 長島秀弥(向山ファイターズ) 山崎駿吾(津田沼少年野球団) 皆吉航太郎(美花クラブ) 川野翔大(鷺沼マリンス) 池尻菜月(鷺沼マリンス)

谷津パンチャーズV

準決勝・決勝の接戦を制す

市民野球 秋季大会1部



優勝の谷津パンチャーズ



準優勝の千葉ロッテ

令和3年度秋季市民野球大会の1部トーナメント戦が9月26日から10月10日まで、第一カッター球場ほか

7回表、千葉ロッテは先頭の伊藤が左前安打。畠山の内野安打などで満塁とするが、無得点。一方、パンチャーズは最終回、一死

から8番河野が中前安打、途中から入った9番津田は四球で走者一、二塁に1番三橋の左前安打で同点とする。

8回からは無死、走者一、二塁でのタイブレーク。8回表、千葉ロッテは3番福澤の左中間安打で1点、走者二、三塁から内野ゴロと5番山田のスクイズで3点を奪う。パンチャーズはその回裏、4番浦地の死球で満塁。新見の犠飛で1点。二死となるが、6番村上は内野安打で再び満塁。7番宮嶋の右中間安打で5-5の同点とする。続く河野は四球で満塁に、津田も四球押し出しで、パンチャーズが勝利した。谷津パンチャーズの1部優勝は、初優勝した平成30年の秋季大会以来。

決勝戦はいずれも僅差の準決勝戦を勝ち抜いた千葉ロッテと谷津パンチャーズとの顔合わせとなった。千葉ロッテは3回表、先頭の8番須賀が四球、9番山田の二塁打で先制。4回表には内野ゴロの4番荒井が連続エラーと5番草野の内野ゴロで三塁へ。6番伊藤の遊ゴロで荒井がかえり1点追加する。パンチャーズは4回裏、5番新見の右翼スタンドへの本塁打で1点を返す。

決勝戦は、千葉ロッテは先頭の伊藤が左前安打。畠山の内野安打などで満塁とするが、無得点。一方、パンチャーズは最終回、一死から8番河野が中前安打、途中から入った9番津田は四球で走者一、二塁に1番三橋の左前安打で同点とする。

谷津パンチャーズ	7-0	日立習志野
千葉ロッテ	4-1	習志野シヤクラーズ
熊商	1-0	ブレイブアイズ
習志野レックス	7-0	花咲ベガ
谷津パンチャーズ	3-1	アポロン
千葉ロッテ	7-0	京成乗務員
ポンキーク	6-4	熊商
谷津パンチャーズ	2-1	習志野レックス
千葉ロッテ	3-2	ポンキーク

▽1回戦
花咲ベガ 5-3 MIYAMA エポックス
ポンキーク

▽準決勝戦
谷津パンチャーズ②千葉ロッテ③習志野レックス④